

028 境沢町区有文書と目録作成について

1 須坂市境沢町は、中世以来小山郷の村落のひとつで、市川右岸の最下流域に存続した小村落である。江戸中期までは市川が鮎川と合流して百々川に合流する辺りに立地していた。正徳2年の水害で現在地に移り住んだと伝えられている。移住後も、暴れ市川との苦闘を重ねてきたが、現在では農業集落から住宅地へ、そして須坂市の西部市街地を形成し、国道筋は自動車販売・修理などサービス業種が並び商工業的色彩の濃い町に変わりつつある。

2 境沢町では、こうした町の発展と激しい変貌をふまえて、『境沢町誌』編さんを企画し、編さん専門委員会を立上げ、平成21年度発行をめざしてすすめてきている。こうした活動のなかで、市誌編さん室の計画「文書整理と目録作成」について呼応され、整理・目録化の運びとなったものである。

3 境沢町区有文書は、江戸期の史料は少なく末期のものが数点だけである。明治期になると、土地関係、水害関係がよく残っている。また、水害に伴う消防・衛生活動史料、井戸・水道などの史料も目立つ。これらの史料は、小村落の団結とエネルギーを感じるものが多い。子々孫々にまで残し、必要があれば誰でもが原史料を利用できるようにされることを期待したい。

4 当町の史料を「028 境沢町区有文書目録」として作成し、『須坂市域の史料目録』の整理番号「028」（28番目）に位置づけ整理した。境沢区の特性に基づき、内容によって分類し、次のようにした。

但し、史料によっては土地か神社関係か、その比重によって分類したものもある。

分類項目	史料番号数	史料点数
A 区政・土地	97	234
B 水防	16	16
C 用水・井戸・水道	10	10
D 道路・橋梁	14	14
E 衛生	14	16
F 消防	8	8
G 青年会・諸団体	19	19
H 福祉	17	18
I 社寺	36	37
J 産業	28	39
K 兵役・その他	5	5
総計	264	416

5 史料目録の作成にあたっては、つぎのようにした。

- (1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を用い、無表題史料には（ ）を用いて仮表題をつけた。

(2) 「記」「覚」「陳情書」のみで内容未記載の史料については、表題後の（ ）に内容説明を記した。

また、備考欄に内容を記したものもある。

要望書（都市計画…）

(3) 史料形態については、つぎのように略記した。

横（横帳）、横半（横半帳）、縦（縦帳）、紙（一紙）、冊（冊子）、綴（とじ）

6 本史料目録は、市誌編さん室の下記専門員の協力をえて作成した。

丸山文雄 小林謙三 宮沢慶男 井上光由

小林 裕 勝山一男 竹内正勝

平成 21 年 11 月 30 日

（編さん担当：青木廣安）